

(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成28年度

和歌山県

経常収支比率の分析

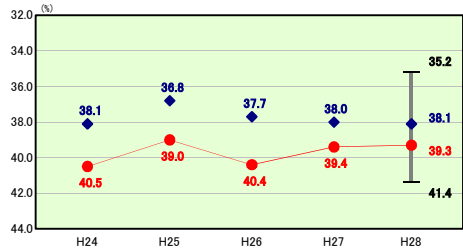
人口	984,689人	(H29.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	978,540人	(H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	4,724.71km ²		実質公債費比率	9.5%
歳入総額	541,231,559千円		将来負担比率	193.9%
歳出総額	529,380,339千円		グループ	H24 E H25 E H26 D
実質収支	3,682,343千円		(年度毎)	H27 D H28 D
標準財政規模	297,018,144千円			
地方債現在高	1,020,121,909千円			



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

人件費

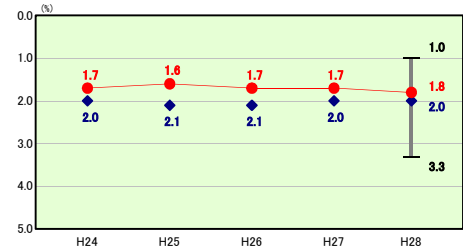
グループ内順位 10/15 都道府県平均 38.8



人件費の分析欄
 平成26年度は、給与改定の影響により、前年度に比べ1.4ポイント増となったものの、平成27年度以降は定数削減の効果等により、下降傾向となっている。
 半島という地理的な条件により職員の分散配置が必要なことなどからグループ内平均値を上回っている現状にあるため、引き続き人件費の抑制に努めていく。

扶助費

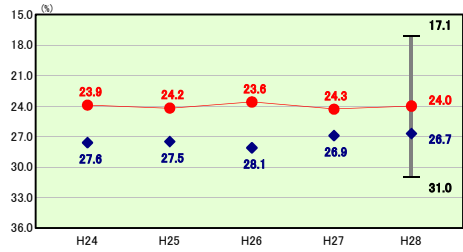
グループ内順位 5/15 都道府県平均 1.9



扶助費の分析欄
 平成26年度及び平成28年度は、児童福祉措置費の増加等により前年度に比べ0.1ポイント増となった。グループ内平均値よりは0.2ポイント下回っている状況であり、引き続き制度の適正な運用に努めていく。

公債費

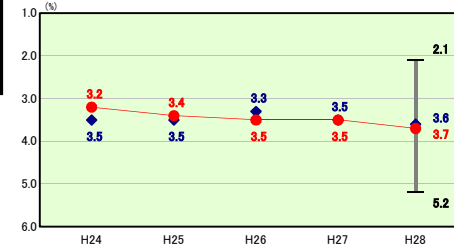
グループ内順位 2/15 都道府県平均 22.4



公債費の分析欄
 毎年度の臨時財政対策債の発行に伴う償還金増による上昇傾向がある中、平成28年度は繰上償還による公債費圧縮効果により、前年度に比べ0.3ポイント減となった。
 繰上償還の実施等、将来の公債費負担軽減に努めてきたことや、出来る限り交付税措置のある地方債に発行を限定し、県債発行の抑制に努めてきたこと等により、グループ内平均値を下回ってはいるが、今後とも県債発行額の抑制等により、公債費負担の軽減に努めていく。

物件費

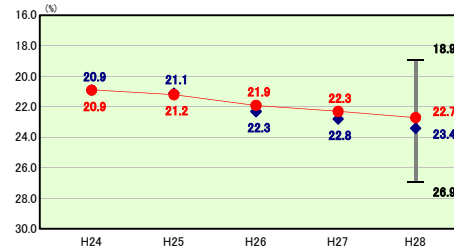
グループ内順位 8/15 都道府県平均 3.5



物件費の分析欄
 平成28年度は、消防学校建替等による経費が増加し前年度より0.2ポイント上昇し、グループ内平均値を上回る結果となった。引き続き効率的な事務執行等により物件費の抑制に努めていく。

補助費等

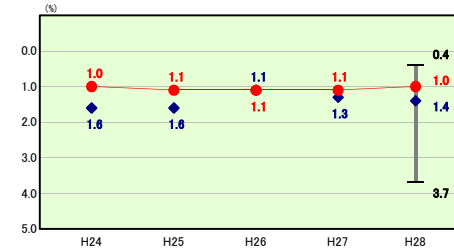
グループ内順位 6/15 都道府県平均 26.5



補助費等の分析欄
 社会保障関係費等の増加により、上昇傾向となっており、平成28年度も、前年度に比べ0.4ポイント増となった。
 所要の社会保障関係費を確保するとともに、各単独補助金等の見直しを検討するなど、一層の抑制に努めていく。

その他

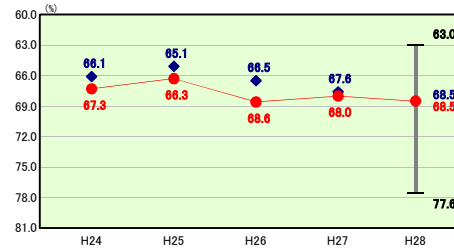
グループ内順位 8/15 都道府県平均 1.2



その他の分析欄
 平成28年度は前年度に比べ0.1ポイント減となった。
 今後、インフラの老朽化により、財政的な負担が増大するおそれがあるため、計画的な維持補修を行うことで費用を平準化し、コストの縮減に努めていく。

公債費以外

グループ内順位 8/15 都道府県平均 71.9



公債費以外の分析欄
 平成27年度は、人件費の減少等により、前年度に比べ0.6ポイント減となった。
 平成28年度は、歳出の人件費の減等により経費は減少したものの、歳入の地方消費税の貨物割が大幅に減少したため、前年度に比べ0.5ポイント増となった。
 引き続き諸経費の抑制に努めていく。